

“物理探査”投稿細則

1998年(平成10年)7月3日改訂
2004年(平成16年)12月19日一部改
2006年(平成18年)6月1日改訂
2007年(平成19年)8月1日一部改

全体

1. 投稿は電子投稿に限る。投稿する際は、下記投稿用ページにアクセスし、2.に示す投稿カードおよび原稿(電子ファイル)を投稿する。具体的な投稿方法はホームページの記述に従うこと。

投稿用ページの URL :

<http://www.segj.org/report/submit/>

2. 投稿に必要なファイルは以下のとおり。

- 1) 投稿カード(電子ファイル)
- 2) 原稿(電子ファイル)

原稿のフォーマットには、査読原稿用と印刷原稿(最終原稿)用の2種類がある。最初の投稿時および査読中は査読原稿用フォーマットで原稿を作成すること。査読終了後、原稿が掲載されることが決定した後に印刷原稿用フォーマットで版下原稿を作成し、投稿すること。

フォーマットの詳細については「査読原稿フォーマット」(付録A)および「印刷原稿フォーマット」(付録B)に示す。また原稿フォーマットは学会ホームページからダウンロードすることができる。

ダウンロードページの URL :

<http://www.segj.org/report/submit/template/>

3. 投稿原稿は(査読原稿・印刷原稿ともに)、原則として PDF 形式とし、ファイルサイズの上限を原則 10MByte とする。なお、PDF ファイルの作成においては、付録C「PDF ファイル作成上の注意」を参照すること。
4. 所属は著者名の右肩に*を付けて対応づける。3つ以上の所属がある場合は、*、**、*3、*4...として著者名と所属を対応づける。
5. 和文・英文原稿とも和文要旨、英文要旨をつける。和文原稿の場合は、最初に和文要旨、最後に英文要旨をつけ、英文原稿の場合は、最初に英文要旨、最後に和文要旨をつける。和文要旨は全角 800 文字以内(スペース含む)、英文要旨は半角 3000 文字以内(スペース含む)とする。
6. 論文内容を十分に表わすキーワードを 5 つ程度選び、和文および英文要旨の下に記述する。
7. 原稿の内容の全部または一部をすでに当学会学術講演会で発表している場合は、脚注に講演会の回番号・開催年・季を書き添える。[和文例:第 79 回(昭和 63 年度秋季)学術講演会にて(一部を)発表,英文

例: A part of this paper was presented at the 79th SEGJ conference,1988].

原稿のスタイル

6. 文体は口語体で、「である調」を基本とする。
7. 章・節・項の見出しの付け方は原則として次のようにする。
章) 1., 2., 3.,...
節) 1.1, 1.2, 1.3,...
項) 1.1.1, 1.1.2, 1.1.3,...
見出し語はゴシック体とし、左詰めで書く。
8. 句読点は「。」「,」「,」表記とする。
9. 英文のピリオド・カンマは半角を用いることとする。
10. 数字はアラビア数字を用いる。ただし、数百、数十などの表示は用いてもよい。単位の表示は原則として国際単位系(SI 単位系)とする。mGal, g/cm³などの慣用単位を用いる場合は、最初に使うときに SI 単位も併記する。
11. 数式はできるだけ常識的な記号を使い、記号が最初に現れる箇所に記号の定義を示すこと。同一の記号を二つ以上の意味で用いることは避けること。また、印刷に便利のように十分注意して文字・記号を記すこと。文中に挿入するときは、 $a/b \exp(-t/X)$ のように一行で表記する。
12. その他
 - 1) 英数字(ローマ字)は半角を用いる
 - 2) ギリシャ文字は symbol font の半角を用いる
 - 3) ローマ数字は全角を用いる
 - 4) カタカナは全角を用いる
 - 5) 本文中の変数は半角を用いる
 - 6) Windows 系, Macintosh 系の OS 毎に固有の機種依存文字および JIS 第 2 水準を越える漢字を使用しない

図・表

13. 図の解像度は 300dpi 以上を推奨する。ただし、不必要に解像度を大きく設定すると、ファイルサイズが著しく大きくなるので注意すること。
14. カラー図面の使用枚数に制限はないが、冊子は白黒印刷になることを考慮して図面やそれに伴う本文・キャプションを作成すること。ただし、著者が希望する場合はカラー印刷も可能である。この場合、カラー印刷にかかる実費を投稿者が負担するものとす

る。

15. 図(写真を含む)および表はそれぞれ通し番号およびキャプションを付ける。キャプションは原則として英文とし、通し番号は Fig.1, Table 1 のようにする。

ただし、特に必要な場合は和文のキャプションでも差し支えない。その場合、通し番号および本文中の参照は図 1, 表 1 のようにする。

付録中の図・表は付録ごとに通し番号を付し、英文は Fig.A-1, Table B-2, 和文は図 A-1, 表 B-2 などとする。

参考文献

16. 文中での引用は著者姓(発行年)または(著者姓, 発行年)とする。番号は付けない。著者が 2 名のときは「・」または「and」でつなぐ。著者が 3 名以上の場合は筆頭著者姓の後に「ほか」または「et al.」をつける。同一年の同一著者の論文を複数引用するときは、発行年の後に a, b などの記号を付けて区別する。同一年の同姓著者論文を引用するときは姓名を書いて区別する。() 内で複数の文献を連記するときは発行年順に書き「;」で区切る。

17. 参考文献リストは著者名のアルファベット順に配列する。番号は付けない。1 つの文献の記載が 2 行以上にわたるときは、2 行目以下の左端をあける。同一著者が続くときはその姓名を省略し、代わりにダッシュを用いる。欧文題名は固有名詞を除き最初の単語の第 1 文字のみを大文字とする。英文原稿で和文文献を引用するときは題名の後に「(in Japanese)」と記す。

未発行の論文は、受理が確定したもののみを参考文献として引用でき、参考文献リストには「掲載予定または(in press)」と記す。それ以外は本文中で、「私信」または「personal communication」とし、参考文献として扱わない。

インターネット上の情報を引用する場合、ホームページアドレス(URL)を参考文献リストに掲載するのであれば Chicago スタイルに準ずる。参考文献リストに掲載しない場合は、URL の参照を本文中に記述する。詳しくは付録 F「ホームページの引用方法」を参照すること。

18. 参考文献リストの様式

1) 雑誌

- 【様式】著者名(発行年): 題名, 誌名, 巻番号(ポールド体), 開始頁 - 終了頁
- ・ 頁は通し頁を記す
 - ・ 欧文雑誌名は慣用にしたがって省略形で表記し、

イタリック体を用いる

- ・ 通し頁のない雑誌は巻・号とその号の頁を記す
- ・ 巻数のない雑誌は通しの号数を記す

2) 単行本

【様式】著者名(発行年): 題名, 出版社名, 所在地, { 開始頁 - 終了頁 }

- ・ 頁は参照箇所を特定できるときは、その頁範囲 { 開始頁 - 終了頁 } を書く

・ 欧文単行本題名はイタリック体を用いる

- ・ また、単行本がいくつかの論文で構成されており、その 1 つを参照するときは次の様式にしたがう

【様式】著者名(発行年): 論文題名, 編者名および“編”, 単行本題名, 出版社名, 所在地, 開始頁 - 終了頁

- ・ 欧文単行本の場合は、編者名の前に “in” を、後に “ed(s) をいれる

3) 講演論文集など

【様式】著者名(発行年): 題名, 講演会名および論文集名, 頁

4) 報告書類・図幅類

単行本の様式に準ずる

5) 学位論文など

【様式】著者名(発行年): 題名, 博士・修士論文等の区別, 大学機関名等

6) その他

付録 D に「文献の記載例」を、付録 E に「雑誌の省略形の慣用例」を示したので参照すること。

その他

19. 校正

1) 電子投稿原稿については、筆者が印刷原稿を作成するため、筆者校正は原則として行わない。ただし、事務局からの指示に従い筆者が印刷原稿の体裁修正などを行う場合はある。

2) 電子投稿でない原稿に関しては、筆者校正を行う。校正は原則として初校のみとする。筆者校正は指定された期限以内に事務局へ返送するものとする。期限に遅れた場合は、委員会の校正をもって校了とする。校正の際、印刷の誤り以外の修正は認めない。

20. 投稿に関する問い合わせ先

〒101-0031

東京都千代田区東神田 1-5-6 MK 第 5 ビル 2F

物理探査学会誌編集委員会

Tel: 03-6804-7500 E-mail: office@segj.org

付録 A 査読原稿用フォーマット
別紙を参照のこと

付録 B 印刷原稿用フォーマット
別紙を参照のこと

付録 C PDF 作成上の注意

社) 物理探査学会では、投稿された原稿を電子ジャーナルとして WEB 上で公開します(当面は印刷物も並行して出版致します)。WEB 上で公開するにあたり、投稿された論文が様々な環境下(Windows, Macintosh など)で正しく閲覧できることが求められます。ここでは、PDF ファイル作成上の注意点を示しますのでご参考下さい。

ファイル作成時の注意点

1. 電子投稿可能なファイルサイズの上限は、原則として 10MByte です。
2. 機種依存文字および第 2 水準を越える漢字は使用しないで下さい。
3. 図や写真はカラーでも結構です。ただし、冊子体は白黒印刷となることを考慮して下さい。
4. フォントを PDF ファイル中に埋め込んでください。
5. 図や写真の解像度を 300dpi 以上とすることを推奨します。

PDF 変換時の注意点

1. PDF 変換を行う際には、必ずフォント埋め込みを行って下さい。
2. 原図だけでなく、PDF ファイル作成時にも図の解像度を設定する必要があります。解像度が低くなりすぎないようにご注意ください。300dpi 以上を推奨します。
3. 印刷原稿には、ページ番号等を学会で挿入します。パスワード等のセキュリティ設定は行わないで下さい。しおり、サムネール、および他のファイルや WEB ページへの外部リンクの設定はしないで下さい。ただし、ファイル内でのリンクは結構です。
4. 可能であれば他の環境(違う OS のパソコンなど)で正しく表示されるか確認することをお勧めします。

付録 D 文献の記載例

1. 本文中の引用

- ・橋本 (1956) は放射性鉍物探査の諸問題について述べた。
- ・放射性鉍物探査の諸問題 (橋本, 1956) のうち線センサについて...
- ・放射性鉍物探査の研究 (橋本, 1956; 金子, 1957a, 1957b; White et al., 1988) によると...
- ・池谷・西川 (1988)
- ・小谷ほか (1988)
- ・Nelson (1988)
- ・Pitt et al., (1988)
- ・(Davis and Jackson, 1988)

2. 参考文献リスト

[雑誌]

- Cohen, J. (1988): Asymptotic elastic Green's tensor, *Geophysics*, **53**, 992-994.
- Davis, T. L., and Jackson, G. M. (1988): Seismic startigraphy study of algal mound reservoirs, *Geophysics*, **53**, 875-881.
- 茂木 透・本郷克己・佐々宏一 (1986a): 細粒土の電気的特性, 物理探査, **39**, 95-105.
- ・三好福次郎・木下和彦・城森 明 (1986b): 常磐台地における ELF-MT 法による地質構造調査, 物理探査, **39**, 139-146.
- Pitt, P. L., Smith, R. D., Sheffler, G. C., and Warren, R. D. (1988): A plasma jet acoustic source for probing the ocean floor, *Geophys. Prosp.*, **36**, 523-536.

[単行本]

- 物理探査技術協会 (1979): 物理探査用語辞典.
- Kaufman, A. A., and Keller, G. V. (1983): *Frequency and transient sounding*, Elsevier Science Publ. Co., Inc., Amsterdam, 315-410.
- 高安秀樹 (1986): フラクタル, 朝倉書店, 東京.
- 友田好文・藤木博己 (1986): 海山・海溝とリソスフェ

アの厚さ, 平 朝彦・中村一明編, 日本列島の形成, 岩波書店, 48-55.

- Zonge, K. L., Ostrander, A. G., and Emer, D. F. (1986): Controlled-source audiofrequency magnetotelluric measurements, in Vozoff, K. ed., *Magnetotelluric method, Geophysics Reprint Series no.5*, Soc. Expl. Geophys., Tulsa, 749-763.

[講演論文集など]

- Delvaux, J., Nicoletis, L., and Noual, G. (1987): Acquisition techniques in cross-hole seismic surveys, *57th Ann. Internat. Mtg., Soc. Expl. Geophys., Expanded Abstracts*, 395-398.
- 片山浩二・横矢直道 (1988): 対話型屈折法地震探査解析プログラムの開発について, 物理探査学会第78回 (昭和63年度春季) 学術講演会講演論文集, 101-106.

[報告書類・図幅類]

- 藤田和夫・笠間太郎 (1982): 大阪西北部地域の地質, 地域地質研究報告 (5万分の1図幅), 地質調査所.
- 海上保安庁水路部 (1974): 西津軽海盆, 海底地形図 (20万分の1), no. 6327.
- 通商産業省 (1987): 大規模深部地熱発電所環境保全実証調査総合評価報告書.
- 芳野起夫・富沢一郎 (1988): 1986年11月の三原山噴火の前駆現象としての低周波放射現象の観測結果, 行武 毅編, Conductivity Anomaly 研究会論文集, CA 研究グループ, 58-73.

[学位論文など]

- 星野聖子 (1988): 電磁波スペクトルによる火星の金属鉍物資源量予測に関する研究, 博士論文, 東京工業大学理学部.
- Schultz, P. S. (1976): *Velocity estimation by wave front synthesis*, Ph. D. thesis, Stanford University

付録 E 雑誌の省略形の慣用例

(雑 誌 名)

(省 略 形)

American Association of Petroleum Geologists, Bulletin	Am. Assoc. Pet. Geol., Bull
Bulletin of the Seismological Society of America	Bull. Seism. Soc. Am.
Exploration Geophysics(The Bulletin of the Australian Society of Exploration Geophysicists)	Explor. Geophys.(Bull. Aust. Soc. Explor. Geophys.)
Geophysical Journal of the Royal Astronomical Society	Geophys. J. R. astr. Soc.
Geophysical Journal International	Geophys. J. Int.
Geophysical Prospecting	Geophys. Prosp.
Geophysical Research Letters	Geophys. Res. Lett.
Geophysical Surveys	Geophys. Surv.
Geophysics	Geophysics
Institute of Electrical and Electronic Engineers, Transactions on Geosciences and Remote Sensing	IEEE, Trans. Geosci. Remote Sensing
Izvestiya, Academy of Sciences, USSR, Physics of the Solid Earth	Izv. Earth Physics
Journal of the Acoustical Society of America	J. Acoust. Soc. Am.
Journal of Geomagnetism and Geoelectricity	J. Geomag. Geoelectr.
Journal of Geophysical Research	J. Geophys. Res.
Journal of Geophysics	J. Geophys.
Journal of Physics of the Earth	J. Phys. Earth
The Leading Edge of Exploration	Leading Edge
Physics of the Earth and Planetary Interiors	Phys. Earth Planet. Inter.
Radio Science	Radio Sci.
Tectonophysics	Tectonophysics
(和文雑誌を英文で引用するとき)	
物理探査	Butsuri-Tansa(Geophys. Explor.)
土木学会論文集	Proc. JSCE
鉱山地質	Mining Geol.
資源地質	Resource Geology
日本地熱学会誌	J. Geotherm. Res. Soc. Japan
日本鉱業協会誌	J. Mining Metall. Inst. Japan
資源と素材	Shigen-to-Sozai
石油技術協会誌	J. Japan. Assoc. Pet. Tech.
土と基礎	Tsuchi-to-Kiso
地震第 2 輯	Zisin(J.Seismol.Soc.Japan), Ser.2
火山第 2 集	Bull. Volcanol. Soc. Japan, Ser.2
測地学会誌	J. Geod. Soc. Japan
地震研究所彙報	Bull. Earthq. Res. Inst.
地質調査所月報	Bull. Geol. Surv. Japan

付録 F ホームページの引用方法

ホームページを会誌中で引用する場合は、以下のいずれかの方法を推奨する。

1. ホームページアドレス (URL) を参考文献リストに掲載するのであれば、Chicago スタイル (下記) に準じて記述する。
2. URL の参照を本文中に記述しておき、参考文献には載せないようにする。

Chicago スタイル (Chicago Manuals of Style) とは SEG (Society of Exploration Geophysicists) で推奨している引用形式である。この第 15 版 (2003) に Electronic Material の項がある (17-237 参照: 下記)。URL を引用文献に記載する必要がある場合は、物理探査学会もこの方式に準じることとする。

Chicago スタイル第 15 版 Electronic Material の項より URL の引用方法を抜粋 (和訳)

著者、WEB ページのタイトル、WEB サイトのタイトルもしくは所有者、アドレス (URL)、アクセスをした年月日 (可能な場合は記述)。

例: Evanston Public Library Board of Trustees, "Evanston Public Library Strategic Plan, 2000-2010: A Decade of Outreach", Evanston Public Library, <http://www.epl.org/library/strategic-plan-00.html> (accessed July 18, 2002).

著者がいない場合は、WEB サイトの所有者で代用する。

WEB ページにタイトルがない場合は、内容を示すフレーズで代用する。

(例: 写真ばかりの WEB ページの場合に, photo gallery)

WEB サイトがなくなっている場合は、その旨を記入する。

例: Pete Townshend's official Web site, "Biography", http://www.petetownshend.co.uk/petet_bio.html (accessed December 15, 2001; site now discontinued).